

SDGsの観点から考える、「都市部の旧ニュータウン」における廃校利用

～関西湾岸 SDGs チャレンジ 兵庫県神戸市～

この文章を読んでくださっているみなさん、ここ神戸市は関西を代表する湾岸の都市であると思いませんか。そのような神戸市が抱えている課題として今回、私たちのチームに提示されたのが廃校の問題でした。この「関西湾岸 SDGs チャレンジ」のプロジェクトが本格的に始動する前に、メンターの教授からこの課題を初めて聞いた時には正直、驚きました。「この神戸市で廃校が問題になっているのか。」と。



私たちは、須磨区の甲南大学白川台キャンパスでの2019年7月14日(日)から15日(月・祝)の泊をともなう会議に向けて各自、下準備をしていく過程において神戸市の、とりわけ北区における廃校の問題の現実を目の当たりにすることになりました。そこから文献を読み込んだり、廃校利用のアイデアを検討したりしました。そして合宿会議の当日に初めてメンバーは一堂に会し、本プロジェクトへの各自の思いや下準備の成果を発表しました。



合宿会議から帰ってきた私たちは現地調査に重点を置き、緻密なフィールドワークを展開しました。2019年8月5日(月)には東灘区のネスレ介護予防カフェへ、8月8日(木)には東灘区のコープこうべへ、8月9日(金)には長田区のふたば学舎へ、8月19日(月)には北区の君影地区へ、メンバーは現地調査に奔走しました。本プロジェクトを修了した今でもメンバーの仲が良いのも、このようにメンバー1人残らず協力し合うことのできたチームであったからこそだと思います。これらの現地調査をふまえて、夏期休業期間も大学に集合して2019年9月22日(日)のチャレンジアカデミーでの成果発表に向けて、時には1日数時間にわたって準備しました。

緻密な現地調査に基づいて分析・検討し、発表本番で私たちは、スーパー銭湯、フリースペース(学習の場)、ワークショップの場(学生ボランティアによる)、カフェ・屋台、宅配の拠点の場を提案しました。なんとその結果、神戸市の行政の方にもお褒めいただき、「廃校革命賞」という賞まで頂きました。最後に、メンターの久保教授・稲田教授、朝日新聞社の久保田様、甲南大学学長室の方々には、休日にも関わらず嫌な顔一つされずにご参加いただき、多大なご支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。数多の方々のご協力あつての本プロジェクトであったことを痛感するとともに、SDGsの課題の難しさ・奥深さを楽しんでメンバー各自、本当に良い学びができたように思います。今後も2030年のSDGsの目標(Goals)達成に向けて、日常的にSDGsの考え方の必要性は高まっていくばかりです。この文章を最後まで読んでくださったみなさんも、今から考え(Think globally)、行動していこう(Act locally)と思いませんか。



参加者：【甲南大学】文学部3年生 内田 葉月、谷 奈央美、経済学部3年生 村田 沙耶
法学部2年生 高田 明宏、法学部1年生 杉下 趙教

【甲南高校】3年生 岩崎 雅久、2年生 尾久 雅也、1年生 徳平 航大、播磨 颯太
指導教員：甲南大学法学部 教授 久保 はるか、甲南大学経済学部 教授 稲田 義久